

2学期の道徳の振り返り

体育大会から始まり、校内マラソン大会、校内学習発表会、親子リサイクル資源回収など、行事が盛りだくさんだった2学期もいよいよあと数日です。忙しい毎日でしたが、生徒の皆さんは道徳の授業にもしっかりと取り組み、それぞれに考えを深めることができていました。

2学期に行った各学年の道徳の授業から一部を紹介します。

1年：ネット将棋

主人公は将棋の上達を目指してネット将棋を始めますが、弱い相手を選んで対戦したり、負けそうになるとログアウトしたりと不誠実な行動しか取れず一向に上達しません。真摯に将棋と向き合う友人の姿との対比を通して、自律の精神について学びました。

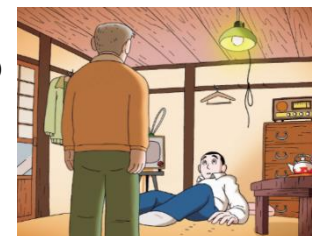
- 卓球の試合でも負けて悔しくて、礼をちゃんと言えなかったことがあります。それでも、相手の良かったところ、マネするべきところや自分の悪かったところは振り返りたいです。負けを認めて、そこからもっと強くなれる方法を探したいです。今までの試合も振り返って、練習に活かし、もっと強くなりたいです。負けた悔しさ受け止めて自分自身が強くなる方法を探したいです。
- 私は試合に負けた時、相手が2年生だから仕方ないぐらいにしか考えていませんでしたが、その強い2年生たちも自分の弱点などを振り返ってサーブの出し方を変えたり、返しにくい球を練習しているんだと思いました。私はサーブの種類をたくさん増やしたいです。
- 自分も卓球の試合で負ける 때가 あった。ダブルスで相手に逆転されたとき、負けたけどなんであそこから負けたんだと少し負けを認めきれないこともあります。他には相手のラバーが粒だったり、相手のせいで負けたと思うことがあります。負けた後はなぜ負けたのか振り返ってはいるので、それは続けたいです。また負けを認めれるようになりたいです。



2年：お前のカワウソがさみしがっているぞ

動物園の臨時職員である筆者は正規職員の採用試験に失敗し、無力感から実家に帰ってしまいます。何も考えられずに過ごしていた筆者ですが、父の一言で自分の行動の甘さ、無責任さを痛感します。筆者の行動を通して、責任ある行動とは何かを考えました。

- 代表委員になったらまず自分の責任を重く感じ、ミスの起こらないよう、下級生の見本となるように行動します。
- 3年生になる上で責任感というものは、上に立つ者として持っておくことが義務だと思った。これからの自分につながるとても良い内容だった。
- 自分の思いだけで動かず、まず相手に目を向ける。特に身内外の人などには迷惑をかけずに責任感を持って行動する。
- 自分の考えだけで行動するのではなく、周りを見たり、周りの意見、考えを受け入れて、しっかり状況判断して行動する。
- これからは責任感を持って行動し、自分で決めたことなども最後までやりきるようにしたい。



3年：母と子のロードレース

アスリートとしてのリスクをかえりみず、母への生体肝移植を行いながらも、ロードレースに挑戦し続けた宮澤崇史さんの思いについて考えることを通して、家族からの支えや無償の愛情に気づき、家族の一員として自覚をもって互いに支え合うことについて考えました。

- 家族の絆は大きな力になりえるんだなと思った。宮澤さんは母親のことを思っていたからこそ、過酷なトレーニングにも耐えることができたと思う。家族の中での自分の役割を見つけ、支え合えるようになる。
- 親の子に対する姿勢だったり、子の親に対する姿勢とかがすごい。絆が深いんだろうな。うちも何かしてくれているかもしれないので、気づいたら恩返しとまではいかなないけど、できることがあればやってあげたいなと思った。親が「勉強せえ」っていうのは、将来困ってほしくないからだと思うので、とりあえず今は勉強を頑張る。

家庭で取り組む高知の道徳について

冬休みは家族で大掃除やお正月の準備をし、一緒に過ごす時間が多くあると思います。改めて「家族の一員」として何ができるか考えてみましょう。考えたことを「家庭で取り組む高知の道徳」P.49に記入して、おうちの人とも話し合ってみてください。

〈返信〉 () 年 氏名 ()